

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：2009年11月15日(日)

光の持つ

地域企業紹介 5

無限の可能性に魅せられて

世界最高照度を実現したファイバー用LED光源装置

光関連製品及びサービスの供給を行うレボックス株式会社は鎌田英洋社長が27歳で起業し現在36歳。

鎌田社長は新卒で産業用機械の商社に就職し、火力発電所向けの流体制御機器の営業に携わる。

しかし、御用聞き営業に「仕事ってこんなものじゃない」「自分の力で生きる道を切り開きたい。」という思いが募り、入社から5年目で退職する。フィンランドの会社に就職するが、為替の変動などで日本向けの事業が成り立たなくなり、これを契機に独立を決意した。

環境をキーワードに木製の三層ガラス窓、窓用フィルム、雨水フィルタと小さい規模ながらも商材を拡げた。

LEDは2001年に大手メーカーから「製造装置のハロゲンランプが頻繁に切れる。LEDは使えないか」という問い合わせから始まる。この案件で顧客から大変喜ばれ、「LEDは大きく成長する」と直感したそうだ。2005年には生産ラインで使用する検査カメラ用LED光源装置を開発。これが検査機器メーカーに採用されたことを契機に大きく成長し、今では売上の約45%を占める。

用途は「太陽光パネル」「液晶テレビ」などのフィルムの表面検査、果物の糖度測定、古文書の解析など大きな広がりを見せている。今月には世界最高照度のファイバー用LED光源装置の販売を開始、また、ドイツで開催される「マシンビジョン展2009」への出展と意欲的な活動が続く。

SICは2005年にLED照明のデザイン開発を現在は生産・品質管理の体制作りを手伝っている。「社員が喜びを分かち合い、人類の平和に貢献しつづけるチャレンジブルな組織を作りたい」と鎌田社長は夢を語る。楽しく元気な社員たちと力を合わせ、世界が目指すLEDメーカーに成長する日は近い。



レボックス株式会社

代表取締役社長 鎌田 英洋 所在地:相模原市上鶴間6-27-5

資本金:1,820万円 年商:2億3百万円(2009年7月決算)

創業:2001年1月※旧社名シブス株式会社(2008年10月変更)

従業員:8名

事業内容:画像処理用・産業用・基礎実験用・建築用LED照明光源及び電源の設計・開発・製造・販売

ウェブサイト: <http://revox.jp/>

株式会社イマジスタ

X線CCDのプロフェッショナル

X線CCDカメラのプロフェッショナルと自負するのは、株式会社イマジスタの小林修社長。社名のイマジスタは、「普段目にしている何気ない素材も角度を変えて観察すれば新しい発見がある。」と英語の Image より命名。1991年の起業当初から、イメージに携わる仕事、特にイメージセンサの周辺機器の開発やサービス、特殊用途のTVカメラの開発、製造、販売をしている。

同社の主力製品はX線CCDカメラ。低いコストでX線の拡大撮影ができることから、工業用X線テレビ検査装置に組み込まれ使われている。発売を開始してからすでに10余年になる。高解像度シンチレータとCCDによって構成されたX線撮影用のCCDカメラ『Xポイント1000』の最近の代表的なアプリケーションは、SMD (Surface Mount Device) のはんだ検査、多層基板のX線基準穴明け

機の基準点 (アライメントマーク) 撮影用のテレビセンサとして使用されている。新製品では、高速CMOSカメラがある。CMOSイメージセンサは、感度ではCCDに及ばないが高速の読み出しが出来るため高速撮影に適している。CMOSイメージセンサを使用したTVカメラはSXGAクラスの高い解像度と高速の画像データを扱うため、通常のアナログのTVカメラの機種は少なく同社が用意している機種もCamera Linkインターフェ

イスを経由してPCのキャプチャーボードに画像を取り込むタイプの機種である。VGAで1722 fps (1秒あたり1722コマ)の撮影ができる。

2003年から、韓国、中国、イタリアなど海外展開し、現在同社の6割を輸出が占めるが、これからも、研究室支援を含め、ニッチマーケットでの使い勝手の良いテレビカメラを、お客様の視点に立って開発してゆくと小林社長は話す。



X線CCDカメラ

(右上) Xポイント1000TPで撮影したBGA(Ball Grid Array)
(右下) 一円 (裏と表が一緒に写っています)

イメージファイバを使用した
カスタム製品の製作

Ronkジャパン株式会社

強さを磨き、デジタル無線をフィールドに活躍中!

Ronkジャパン株式会社 (代表取締役 高山 建) は、今秋苦勞の甲斐があって、開発したデジタル低遅延無線モジュールが国内中堅音響企業新製品への組み込みとして採用が決まった。これからの本格的な販売活動の開始を前に気を引き締めている。

高山氏は中国・西安に生まれ、上海の大学卒業後、日本で言うJAXA(宇宙航空研究開発機構)のような機関に就職。その後、研修生として来日した大手電機メーカーで日本のモノづくりを学んだ。その後、中国と日本の架け橋でのビジネスの可能性を感じ、2006年にRonk上海とRonkジャパンを設立し事業を開始した。

創業からこれまで、試行錯誤の連続だったが、昨年秋から自社の強みであるデジタル無線技術を生かし製品開発に集中。開発したモジュールは、デジタルワイヤレスの常識を破る遅延時間0.5msを実現し、遅延を感じないためにデジタル方式での違和感が抑えられている。

「この1年間、顧客から日本のモノづくりを大いに学び、鍛えられた。日本市場は厳しい。製品仕様を満たすだけでは不十分で、例えば操作感や筐体のデザインなど、日本ユーザーの細かな部分への配慮について苦心した。一番大変だったのは、日本の顧客の要望を開発拠点である中国Ronk上海のエンジニアへ伝えることだった。“なぜ仕様を満たしているのに細かなことが必要なのか。”そう繰り返す現地エンジニアとの戦いだった。」と高山氏は振り返る。今も、逐次スカイプ (Webによる映像電話) を使って上海へ指示を出す。

製造機能・商流を持つ企業がベンチャー企業の先端技術を活用して、新たな製品開発を目指す様子は中堅・中小企業とベンチャー企業との協業のモデルに成り得るようである。

11月18日から幕張メッセで開催される展示会「Inter BEE」へ出展する。

中小企業のカイゼン支援活動

最終回：徹底的なムダの排除

企業はまさに生き物であり、人間の体に例えることが出来る。人間の死は心臓が停止した時であるが、企業も例え決算は黒字でも資金という血液の循環が止まれば倒産となる。従って不況の現在こそ、資金の循環が速い企業体質であること、人間の体に例えると、血の巡りの良い健康体であることが生き残りの条件である。

○財務諸表では見えないことを現場で見る

財務諸表というのは、あくまでも過去の結果を示すものであり、リアルタイムの現実を表すものではない。しかも損益計算書だけを見ておられる経営者が多いが、次のような落とし穴がある。即ち在庫をいくらため込んででも会計上の勘定科目は「棚卸資産」であり、損益計算書 (P/L) 上損失とはならない。

後に述べるように、例えそれが不良資産になっても損失計上するまでに相当期間の時差があるため、危機感を感じないのである。

せいぜい金利負担が増えるぐらいにしか考えておられない方が多い。

しかし現場をよく見ると余分な中間在庫を持つために、次のような現実に遭遇する。

- * 収容箱 (パレット) の余分は追加製作
- * 余分なスペースの確保 (倉庫を借りている場合もある)
- * 余分な運搬を繰り返している
- * 在庫管理のための余分な間接人員を必要とする
- * 品質の劣化 (錆などの発生) による手直しの余分な工数
- * 見込み生産で作った完成品、半製品で売れなくなった死蔵在庫
- * 余分に買いすぎた部品・資材で売れなくなった死蔵在庫

などであるが、これらは除却処分されて始めて損失計上され損益計算書に現れる。この場合でもなかなか迅速に処分されずに長い間資産に計上されているケースが多い。

在庫のムダは、このように損益計算書に現れるまでに時間がかかる仕組みになっている。

しかも、在庫は資金を寝かせていることによって、血液 (資金) の循環を悪化させている元凶である。貸借対照表の左側が膨らんでいけばメタボ体質になっているが、損益計算書は一切警告を発しない点が問題なのである。キャッシュフロー計算書をよく見ると見えてくるが、これでさえ月単位、期単位で時差を置いた事後で無いと分からない。リアルタイムでの問題を把握するためには、現場を見るしかないわけで、「現地現物」が重要な所以である。

○「自分で考える」社員の育成

昭和20年代後半、アメリカのGMが年間300万台生産していた時代にトヨタの生産台数はわずか年間1万数千台程度で、圧倒的な資金不足の中では、在庫を持って資金を寝かせる余裕が無いため「必要なものを、必要な時に、必要なだけ」「ジャストインタイム」で車を作るよう当時の豊田喜一郎社長が言い出されたことである。その課題に対して長い間思考と実験を続けた結果、ついにTPS (トヨタ生産方式) として具現化されたのが大野耐一さん (後の副社長) である。従って、TPSは、本来経営資源の乏しい中小企業に適した多種少量生産の考え方なのである。

一方、現実には本来受注生産であるものをリードタイムが長いために見込

み生産をしたり、段取り時間が長くなるため受注数よりも多めに作って余分な在庫を持っているケースがある。これらは作りすぎのムダであるだけでなく、売れなければ除却処分して損失処理をしなければなりません。

見込み生産をやめて「限りなく受注生産に近づける」には、大ロット生産ではなく小ロット生産で頻りに切り替えをやり、リードタイムを短縮しなければなりません。

そのためには、現在かかっている段取り時間の圧倒的な短縮が必要です。そこが「知恵と工夫」の出どころですが、段取り時間短縮には共通の視点もあり、例えば「内段取りの外段取り化」とか「調整作業の排除」「ネジを使わない締め付けの工夫」などがあります。

例えば外段取りとは、機械を止めてから次の段取りの準備をするのではなく、前のロットの加工中に次の型・治具などをすぐワンタッチで切り替えられるようにすぐ横で準備しておくことです。

いずれにしても方法論よりも大事なことは、目指す「あるべき姿」 (例えば、限りなく受注生産に近づけるなど) を描きそれと現実とのギャップを明確にして、そのギャップを埋めるカイゼン活動に挑戦することである。

その活動を進める上で、全従業員が「考える社員」になればカイゼンの効果が高まることは、私どものクライアントでも見ることが出来ます。

先日のNHKのTVでアナウンサーが「楽天がなぜ強くなったのか」と野村監督に質問していたが「選手が皆自分で考えるようになったから」と答えたのが印象に残っている。

相模七福神を巡る

とってもとってもと ちいさな旅



今回の「ちい旅」は、相模七福神を紹介し、相模線の相武台下から社家までにある七寺で、全行程は約15kmですが、起伏の少ない住宅地なので徒歩で4時間位です。

七福神は正月の縁起物とされ、古くからの福神信仰に由来し多い方がご利益があるとされ、七福神 (恵比寿・大黒天・毘沙門天・弁財天・福祿寿・寿老人・布袋) となりました。



七福神は全国にあり趣味で巡っている人も多いです。相模七福神についてはHPをご覧ください。

<連絡先> Ronkジャパン株式会社
代表取締役 高山 建
さがみはら産業創造センター SIC1-319
TEL/FAX 042-770-9858
ウェブ http://www.ronk-jp.com/

デジタル無線モジュール
(2.4GHz低遅延ワイヤレスモジュール)



高山氏

東京国際航空 宇宙産業展2009

report
展示会レポート

航空宇宙に関するハイレベルな出展！
オンリーワンの技術・製品に出会えるチャンス！

11月4日・5日・6日の3日間、東京ビッグサイトにて開催されました。本展示会への出展は、(財)相模原市産業振興財団が、平成21年度国内見本市相模原ブース出展事業として行ったものです。相模原市内の航空産業への参入を目指す地域企業13社が出展しました。その様子を写真でご紹介いたします。

※さがみはらブース出展企業※(順不同、敬称略)
湘南デザイン(株) 日本サーモニクス(株) 城山工業(株) 日本電子工業(株) Sagami-Future.NET マイクロテック・ラボラトリー(株) 永進テクノ(株) (株)パパス (株)機械学習研究所 (株)イマジスタ エム・アイ・エス テクノロジー(株) (株)青電舎 共立工業(株)



さがみはら未来塾

(後期)募集中!!

企業人としての心構えを学ぶ

No.1

全4回 20代の従業員の方
12月11日(金) 25日(金) 1月8日(金) 2月26日(金)

中堅社員におくる意識改革のすすめ

No.2

全4回 30代~40代の中堅社員の方
1月15日(金) 29日(金) 2月12日(金) 26日(金)

部下指導、後輩指導コミュニケーション講座

No.3

全4回 部下や後輩がいる50代~60代の従業員の方
1月15日(金) 29日(金) 2月12日(金) 26日(金)

初歩から学ぶ 新事業構想の基礎

No.4

全3回 新事業・新分野進出を目指す企業の従業員の方
12月11日(金) 25日(金) 1月8日(金)

プレゼンテーション能力の開発を図る

No.5

全3回 従業員の方
1月22日(金) 2月5日(金) 19日(金)

技術者のための営業講座

No.6

全3回 技術者等で営業機会の多い従業員の方
1月22日(金) 2月5日(金) 19日(金)

詳細は、SICホームページをご覧ください。

時間: 9:30~15:00(昼食・休憩含む)

会場: さがみはら産業創造センター、サンエールさがみはら
受講料: NO.1~NO.3 12,600円(消費税、資料代、昼食含む)

NO.4~NO.6 9,450円(消費税、資料代、昼食含む)

定員: 20名(先着順)

主催: さがみはら未来塾推進委員会、相模原市、(株)さがみはら産業創造センター

※『さがみはら未来塾』受講により、中小企業緊急雇用安定助成金を受給できる場合があります

問合せ: (株)さがみはら産業創造センター (TEL042-770-9119)

担当: 上野、安藤、飯山

SICイベントカレンダー 2009年11月~

12月11日(金)~2月26日(金) さがみはら未来塾(後期)(講座No.1~6)開講

1月28日(木) 第4回協創マッチングフォーラム

knock! knock!
入居企業を募集しています。

SIC空室情報(11月15日現在) SICまでお気軽にお問合せください。(資料: 共益費込み)

	部屋	空室数	賃料(月額)
SIC-1	ラボ	94.5㎡ 1	235,515円
	スモールオフィスA	23.6㎡ 4	78,750円
	スモールオフィスB	17.3㎡ 0	61,320円
SIC-2	オフィス	50.2㎡ 0	164,850円

8月から開講している「さがみはら未来塾」がある日は、何かSICに活気が+されるように感じます。家と同じで、人の来るところには、新しい風が入ります。いい風もあれば、あまり良くない風もあるでしょうが、流れを絶やしてはいけないと申します。未来塾は名前の如くいい風を持って来てくれていると信じます。さて、その「さがみはら未来塾」も好評につき、後期の講座を開講いたします。詳しくは、SICホームページをご覧ください。広報担当

編集後記:

★ご意見・ご感想をお待ちしています。

(株)さがみはら産業創造センター(SIC) 〒229-1131 相模原市西橋本5-4-21

電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077 E-mail: koho@sic-sagamihara.jp